

## 6－5 山陰地域における最近の地震活動

### Recent Seismic Activity in the San'in District

京都大学防災研究所

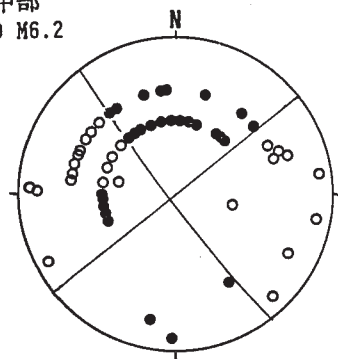
鳥取微小地震観測所

Tottori Microearthquake Observatory

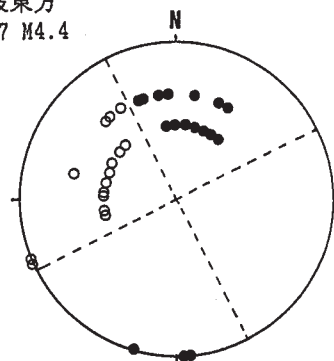
Disaster Prevention Research Institute, Kyoto University

第1図の右下は、鳥取微小地震観測所でテレメーター観測が開始されて以来約11年間の震央分布図である。この地図の範囲をここでは一応山陰地域と呼ぶ。この範囲内にこの期間に起こったM5クラスの地震全部と、その他特に目立った地震活動を図に書入れている。常時活発な活動を示している島根・広島県境（三瓶山周辺）の地震を除き、これらの地震の殆どすべてが最近約3年間に起ったことが判る。1983年の日本海中部地震を契機として、西南日本内陸の地震活動が一般に高くなったことが云われており、山陰地域の活動もその一環であるかも知れないが、いずれにしても、注目の必要があろう。

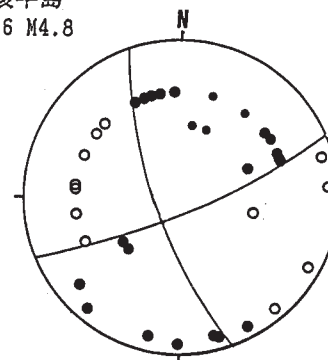
鳥取中部  
83.10 M6.2



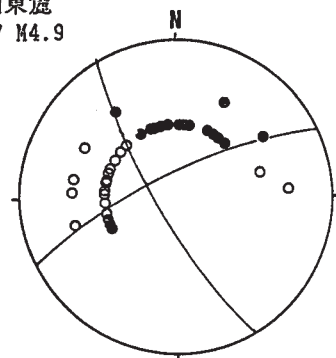
隠岐東方  
86.7 M4.4



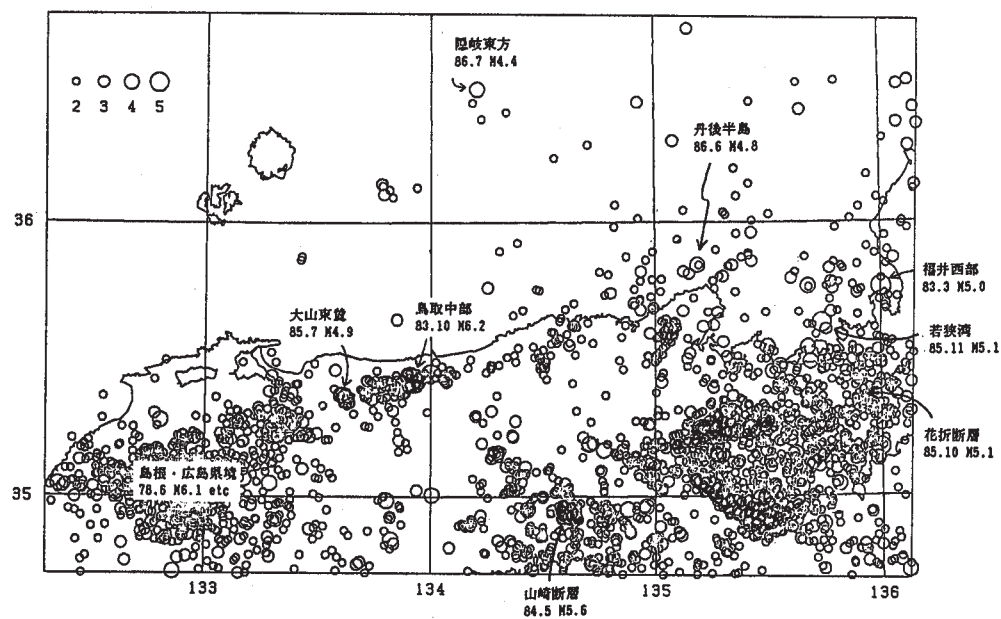
丹後半島  
86.6 M4.8



大山東麓  
85.7 M4.9



(上半球投影)



1976. 5. 1 - 1986. 8. 7

第1図 山陰地域における最近の地震活動と主な地震の発震機構

Fig. 1 Recent seismic activity in the San'in District and fault-plane solutions of some larger earthquakes.